

2019 年 褥瘡・NST 給食委員会業務活動報告

褥瘡・NST 給食委員会委員長

宇野 智子

はじめに

働き方改革関連法が 2019 年 4 月より施行され、日本中で長時間労働を減らすために様々な取り組みがなされているが、医療界にもその波は押し寄せている。

当院における働き方改革の一環として、院内委員会が見直され、2019 年 4 月より、給食運営・NST 運営委員会、褥瘡対策専門委員会が統合され、新たに「褥瘡・NST 給食委員会」が誕生した。同時に委員長を拝命することとなり、2004 年から NST 運営会議委員長、2009 年からは給食運営・NST 運営委員会委員長として NST を牽引してこられた佐々木副院長より重いバトンをいただいた。重責を担うことになり、身の引き締まる思いで今日まで歩を進めてきたが、褥瘡チームでは皮膚・排泄ケア認定看護師の西谷看護師、皮膚科大久保医師、NST では栄養科の関川課長、平岡管理栄養士の強力なバックアップ、そして全スタッフの思いやり、患者さんからの笑顔に助けられ、安心して業務を遂行することができた。この場を借りて感謝申し上げたい。

さて、本稿も働き方改革として、コンパクト化を目指そうと思う。これまでは NST、褥瘡チームの業務活動報告が分かれていたが、今回からは統合して記載することとさせていただく。以下、2019 年の褥瘡チーム (写真 1)、NST (写真 2)、そして新たに誕生した摂食嚥下支援チーム (写真 3) の業務活動について報告する。



写真 2 NST



写真 3 摂食嚥下支援チーム

1. 褥瘡チーム

1) 褥瘡発生状況、褥瘡ハイリスク患者加算

2019 年の褥瘡発生総数は 282 件、院内発生 195 件 (MDRPU 52 件)、院外発生 87 件 (MDRPU 2 件) であり、昨年の 315 件と比較し総数は減少傾向にあった (図 1)。褥瘡有病率 (3.37%)、MDRPU 有病率 (1.12%) は例年と変わらず一般病院 (2013 年日本褥瘡学会調査での褥瘡有病率 1.99%、MDRPU 有病率 0.25%) と比較し高率であった。褥瘡ハイリスク患者加算は 764 件 (収益 3,820,000 円) 算定し、昨年の 638 件と比較し増額となった (図 2)。

2) 褥瘡新聞

表 1 に 2019 年の内容を示す。褥瘡の発生予防には、スタッフの意識改革が重要である。人の意識を変えることは多大な労力と膨大な時間を要するが、今後も新聞や研修会等で根気強く啓発を続けていく。



写真 1 褥瘡チーム

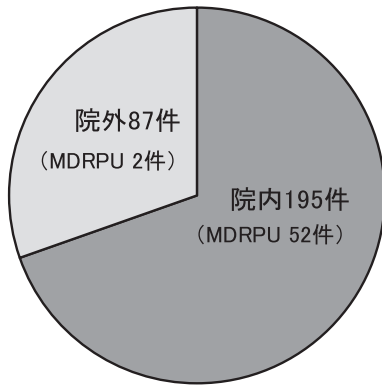


図1 褥瘡発生状況

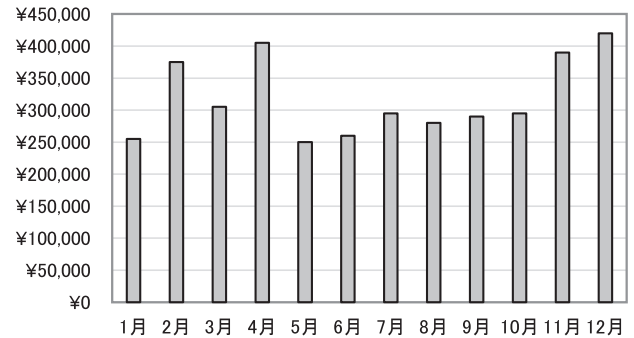


図2 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

表1 褥瘡新聞

発行月	タイトル	作成者
1月	亜鉛が増えない？それ薬のせいかも	薬剤師 安住 匡人
2月	仙骨座りの原因と対処方法について	作業療法士 吉田 直樹
3月	「スキン-テア」と栄養のカンケイ	管理栄養士 林 元子
4月	そのキズはスキン-テア？	皮膚・排泄ケア認定看護師 西谷 美香
5月	CMC アズノール軟膏って何？	薬剤師 安住 匡人
6月	車いす用テーブル	作業療法士 吉田 直樹
7月	排便トラブルと栄養管理	管理栄養士 林 元子
8月	褥瘡プチワールドカフェ	外科・消化器外科 宇野 智子
9月	採血データと褥瘡	臨床検査技師 三室 有璃
10月	サルコペニアと薬	薬剤師 安住 匡人
11月	車椅子座位の座り直し方法	作業療法士 吉田 直樹
12月	低栄養にご用心	管理栄養士 城前有紀乃

3) 新たな取り組み：委員会でのディスカッション導入

褥瘡チームでは「褥瘡発生予防、早期発見、適切な処置継続による早期治癒」を目標としているが、そのためには、病棟看護師の生の声をより多く聞き、病院全体として情報を共有し、問題意識を深めていきたいという思いがチーム内にあった。この思いを形にすべく、2019年より月1回開催される委員会の後半をディスカッション形式へ変更した。チーム内で問題となった症例について議論を行うが、大前提はM & M (mortality & morbidity) カンファレンスと同様であり、決して病棟スタッフの責任を追及しないことである。あくまでも医療の質、システムの改善を目的としている。ディスカッションによりチームとしても数多くの学びがあった。今後も、参加する意義があったと感じられる委員会づくりを目指していきたい。

2. NST

1) 介入症例

2019年は222名の新規NST依頼があり、計98回、延べ1017名のNST回診を行い、過去最高を記録した(図3)。平成30年度診療報酬改定により4職種専任体制へと変更したため、1日の回診患者数上限が15人となり、2018年より徐々に週2回回診を開始していたが、2019年からは週2回回診が定着化した成果と思われる。回診が週2回に増え、患者総数も増加したものの、回診所要総時間は後述の回診前情報共有により短縮され、旧体制の時と変わらない印象である。

NST加算の算定額は、延べ755件、1,510,000円の収益で、前年比105%とこちらも過去最高額となった(図4)。依頼科は呼吸器内科が95名と最も多く、次いで泌尿器科が46名と前年と同様の傾向であり、入院化学療法を施行中の患者、入院加療を要する尿路感染症の高齢患者が大部分を占めていた(図5)。

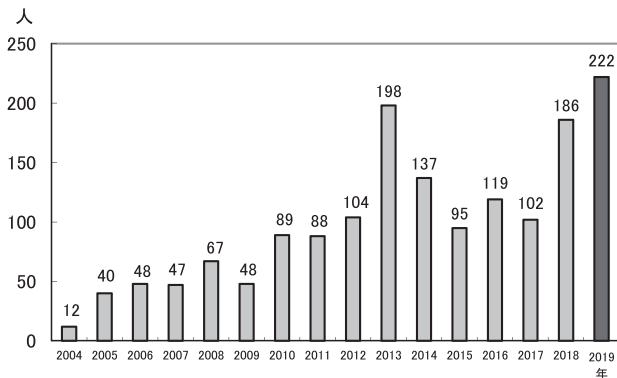


図3 年別 NST 新規依頼患者数推移

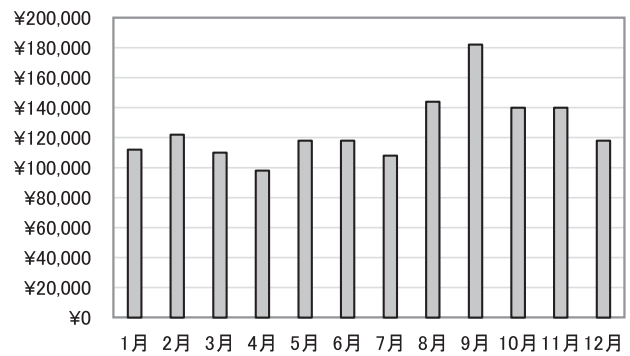


図4 月別 NST 加算算定額

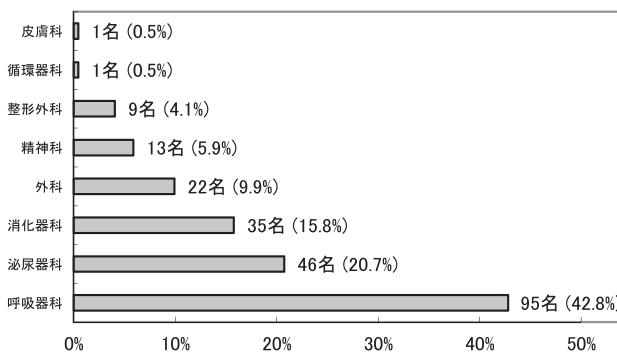


図5 科別 NST 新規依頼患者数

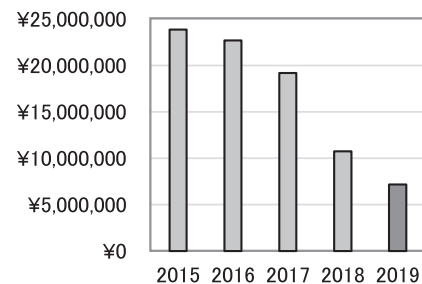


図6 摂食嚥下療法算定額推移

2) 摂食機能療法算定

入院患者、看護スタッフ数の減少に伴い、2015年以降減少が続いており、2019年は4,169件の算定（収益7,155,500円）に留まった（図6）。2018年の診療報酬改定では、従来通りの185点（摂食機能療法を30分以上施行した場合）に加え、30分未満の場合には、新たに130点の区分が新設されたものの、算定件数は増加せず、対策が急務となった。当院では2008年より看護師が算定を主導してきたが、摂食嚥下支援チームの発足を受け、医事課協力のもと、他職種も算定ができる体制へ院内フローを変更した。今後は摂食嚥下支援チームが介入した症例も算定していく予定であり、来年の増収に期待したい。

3) 地域への貢献

① 講演会主催

2019年9月20日に佐々木副院長が代表世話人を務める室登NST研究会による講演会が開催された。室登NST研究会は地域連携、栄養管理の連携を目的に室蘭登別エリアの医療スタッフを対象に年1回開催されており、今回で7回目を迎える。一般演題では平岡管理栄養士が、特別講演では佐々木副院長が座長を務めた。特別講演では済生会横浜市東部病院の谷口英喜医師を招き、術後回復促進を目指した周術期管理について理解を深め

た。

また、同研究会メディカルスタッフの会、通称“ツナガル”では、人、病院等の医療関連施設、情報をつなげる事業として、定期的に研修会を開催しており、当院スタッフも運営に参加している。2019年3月20日に第8回“ツナガル”が開催され、リハビリ栄養についての講演、グループワークを行った。

患者さんの自宅・施設退院、転院に際し、栄養に関する情報を的確に伝達することは、患者さんの健康維持のために非常に重要である。円滑な伝達には、普段から顔の見える関係性を近隣医療関連施設と構築する必要がある。これらの活動は、スタッフの知識向上のみならず、地域とのつながりをより良好に保つ上で不可欠であり、今後も継続していきたい。

② NST 関連認定教育施設としての教育活動

2019年に日本臨床栄養代謝学会（旧称 日本静脈経腸栄養学会）のNST 専門療法士実地修練認定教育施設として、外部から3名の研修生を受け入れ、研修を行った。研修の一環として、2019年11月16日（土）には、「NST 実地修練講習会 2019」として、座学の講習会を開催した（写真4）。また、日本栄養士の栄養サポートチーム担当者研修認定教育施設としても、外部から4名の研修生を受け入れ、研修を行った。



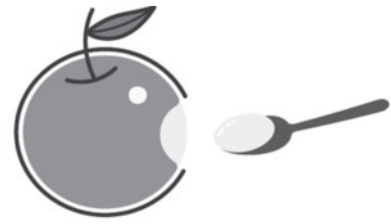
写真4 NST実地修練講習会

4) 新たな取り組み：回診前情報共有

2019年より、各職種がチームの一員として回診に参加することの自覚を高め、さらに情報共有を効率化することを目的として、電子カルテのチーム医療支援ソフトの改訂を行った。これまでNSTスタッフの回診前準備は自主性に任されており、職種間でばらつきがあった。2019年からは通常業務に支障のない範囲で、回診前に各職種が電子カルテを確認し、問題点を事前に抽出し、電子カルテに書き込めるよう変更した。このシステムの導入により、回診で何を診るか、どのような提案をするかが回診前には概ね定まっている状態となり、回診に要する時間の短縮に繋がった。今後の課題として、事前準備時間の短縮があり、チーム医療支援ソフトの最適化や準備手順の効率化を目指していく。

3. 摂食嚥下支援チーム

横田言語聴覚士の発案により、2019年9月に摂食嚥下支援チーム（通称 Swallowing Support Team）が発足した。当面はNST内組織として活動を行い、メンバーは2018年に当院で新たに誕生した摂食・嚥下障害看護認定看護師をはじめ、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、医師からなるが、必要に応じてNSTのスタッフもアドバイザーとして参加する体制とした。2020年1月現在で発足から僅か4カ月だが、リーダーの横田言語聴覚士のバイタリティ溢れる行動力により、すでにチームロゴ作成（図7）、嚥下障害相談窓口の設置、ミニ勉強会の実施、嚥下新聞の発行、入院患者への介入、患者用パンフレット作成が実現できた。現在、チーム医療支援システムソフトと連動したチーム介入フローの定型化、NSTマニュアルの見直しに向けて鋭意推進中である。



muroran city general hospital
Swallowing Support Team

図7 摂食嚥下支援チームロゴ（横田言語聴覚士デザイン）

4. 院内研修会

1) 開催実績

2019年は年11回の研修会を開催し、延べ868名の参加があった（表2）。昨年より開催回数が1回多いため延べ人数は増加しているが、各回の参加人数は減少傾向にあり、今後いかに参加者を増やしていくかが課題である。

2) 新たな取り組み：多職種参加型研修会を目指して

2019年4月より、月1回開催される「勉強会」を「研修会」に名称変更した。その背景には、講義だけではなく研修に参加することで、自分で考え、行動し、学習してほしいという思いがあり、チームとしても参加者により能動的な内容となるよう、座学以外の形式や実演を意識的に増やした。例えば、6月の研修会では、ワールドカフェ方式とし、MSWを含む院内スタッフが職種、部署を超えて会話を楽しんだ（写真5）。7月の研修会ではリハビリテーション科のスタッフが実演を交えて講義を行い、好評であった。

5. 学会活動

チームスタッフが筆頭演者として、NST関連では、全国学会4題、地方会4題、計8題の発表を、褥瘡関連では、全国学会1題の発表を行った（表3）。今後も当院のチーム医療活動について積極的に北海道、日本全国の医療施設へ向けて発信していく。

表2 NST・褥瘡合同研修会

開催日	タイトル	講師	参加者数	
			院内	院外
1/29	嚥下調整食分類 ～実際に食べてみましょう！～	ネスレ日本株式会社 土谷 雄介	58名	3名
2/26	学会報告	管理栄養士 市場 尚子 管理栄養士 林 元子 外科・消化器外科 宇野 智子	59名	2名
3/26	がん薬物療法と栄養と口腔ケア	消化器内科 小野寺 馨	59名	1名
4/23	褥瘡と栄養ケア	株式会社クリニコ 稲田麻菜美	92名	5名
5/28	スッキリしたい！ ～排便コントロールを目指して～	薬剤師 浅野由美子	88名	2名
6/25	こんなときのケアはどうする？ ～日々遭遇するキズの対処法～	皮膚・排泄ケア認定看護師 西谷 美香	87名	6名
7/23	褥瘡プチワールドカフェ	外科・消化器外科 宇野 智子	95名	4名
9/24	栄養評価における臨床検査	臨床検査技師 吉田 倫子	52名	5名
10/29	特性を活かした褥瘡治療 外用薬？被覆材？ ～適正使用の試み～	皮膚科 大久保絢香	91名	10名
11/26	車椅子のシーティング・除圧について	作業療法士 吉田 直樹	91名	3名
12/24	摂食・嚥下障害認定看護師が伝えたい 食事介助のここだけは	摂食・嚥下障害看護認定看護師 岩本 高始	54名	1名



写真5 研修会（ワールドカフェ）

おわりに

チーム医療を継続していくには、長年に渡って築かれた伝統を守ること、そして新たなことにもチャレンジし続けるスピリットが大切だと考えている。変革には大き

な労力を伴うが、限られた時間、限られた人員でいかに効率的に業務を遂行するかが今後の課題とも言える。常に患者さんファースト、そしてチームスタッフ、病院、地域全体への配慮も忘れず、褥瘡チーム、NST、摂食嚥下支援チームを盛り上げていきたい。

表3 業績集

1. 関川由美, 林 元子, 星野裕子, 平岡彩子, 市場尚子, 城前有紀乃, 小野寺馨, 宇野智子, 佐々木賢一: 化学療法患者における継続的栄養指導評価を目指した取り組み. 一般演題 (口演), 第22回日本病態栄養学会年次各術集会 (2019年1月11-13日 横浜)
2. 市場尚子, 関川由美, 林 元子, 星野裕子, 平岡彩子, 城前有紀乃, 宇野智子, 佐々木賢一: 減圧目的のチューブ留置患者を想定した高蛋白摂取回復支援食の体内物性変化に関する実験的検討. 一般演題 (口演), 第22回日本病態栄養学会年次各術集会 (2019年1月11-13日 横浜)
3. 林 元子, 関川由美, 平岡彩子, 市場尚子, 前田有一郎, 浅野由美子, 河原林治朗, 吉田倫子, 古内久美子, 宇野智子, 佐々木賢一: S状結腸癌術後にSMA症候群を発症し本人希望の経口摂取へ寄り添った1症例. 一般演題 (口演), 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (2019年2月14-15日 東京)
4. 星野裕子, 宇野智子, 関川由美, 林 元子, 平岡彩子, 市場尚子, 城前有紀乃, 舟本史織, 佐々木賢一: アンケート調査からみえた栄養情報提供書のあり方について. 一般演題 (口演), 第38回食事療法学会 (2019年3月2-3日 千葉)
5. 城前有紀乃, 関川由美, 平岡彩子, 星野裕子, 三上貴寛, 中田智美, 岩城 薫, 古内久美子, 宇野智子, 佐々木賢一: 重度神経性食思不振症に介入した1症例. 一般演題 (ポスター), 第12回日本静脈経腸栄養学会北海道支部例会 (2019年6月1日 札幌)
6. 宇野智子, 三室有璃, 吉田倫子, 木村明菜, 古内久美子, 前田有一郎, 三浦るみ, 平岡彩子, 林 元子, 河原林治朗, 佐々木賢一: 当院にて血清亜鉛値を測定した患者背景因子の検討. 一般演題 (口演), 第12回日本静脈経腸栄養学会北海道支部例会 (2019年6月1日 札幌)
7. 宇野智子, 関川由美, 平岡彩子, 城前有紀乃, 星野裕子, 横田泰平, 浅野由美子, 小野寺馨, 河原林治朗, 佐々木賢一: 医師の立場からみた当院におけるNST活動の現状と課題. シンポジウム, 第12回日本静脈経腸栄養学会北海道支部例会 (2019年6月1日 札幌)
8. 佐々木賢一: 一般演題, 座長. 第12回日本静脈経腸栄養学会北海道支部例会 (2019年6月1日 札幌)
9. 谷口奈恵子, 西谷美香, 大久保絢香, 浦山良平, 東出 俊, 福本凌太郎, 吉田直樹, 高木美穂, 村井 誠, 宇野智子: フィラデルフィアカラー装着時に仰臥位姿勢で後頭部にかかる体圧分散の比較検討. 第21回日本褥瘡学会学術集会 (2019年8月23-24日 京都)